

法政大学 vs 平成国際大学

5月6日(火・祝)
11:30K.O.
千葉東総

前節は引き分けたチーム同士の対戦。既に3引き分けで、同じく無敗の神大とは勝点4差がつき、これ以上離されたくない法大。一方の平国大は、ようやく今季初の勝点を獲得しただけに、上向きに持っていきたい。

法大は前節、産能大と対戦して2-2の引き分けに終わった。しかも、14分までに2点を奪って楽勝ムードの出だしただけに、2点を追い付かれての引き分けは勝点2を失ったに等しい。長山一也監督も「前半で3点目が取れずゲームを決められなかったのが、まだまだ甘いところ」と話した。また、「パスミスが失点のきっかけになったので、ボールの動かし方をもっと冷静にする必要がある」(長山監督)。攻撃面では多くのチャンスをつくり、シュート数も多く好調は維持しているが、下位チームの必死の反撃に押されたとも言える。今節も、最下位ながらアグレッシブな戦いを見せる平国大を相手に、慎重な試合運びをしたいところだ。

その平国大は、健闘むなしく開幕5連敗を喫していたが、前節は青学大と1-1で引き分け、まずは待望の勝点をゲットした。毎試合2点以上の失点があったが、前節は1失点に抑え、西川誠太監督も「やってきたことは出せた。失点も1人が足をつって動けない状態でやられ

たので、逆に言えばきちんと揃っていれば防げたのでは」と評価した。開幕から3試合は先制点を許していたが、ここ3試合は逆に先制点を奪うゲーム運びができてい。無得点試合も1度だけだ。課題の失点パターンへの対処にも明るい兆しが見えた前節だけに、良いイメージを持って今節に臨みたい。90分間、集中力と運動量を落とさず対応できるか。

<昨年の対戦>前期/法大1-1平国大、後期/法大0-0平国大

法大	平国大
2. 永戸	2. 増田
16. 青島	29. 木曾
22. 田代	26. 小松崎
25. 西室	17. 尾林
12. 袴田	9. 星子
18. 鈴木	34. 押山
10. 高橋	21. 馬屋原
26. 伊藤	5. 鎌田
3. 宗近	6. 福嶋
8. 三田	15. 堀越
6. 星	3. 深井

東洋大学 vs 拓殖大学

5月6日(火・祝)
13:50K.O.
千葉東総

連勝でようやく調子が上向ってきた東洋大と、こちらも最近3試合で勝点7を積み上げた拓大との対戦。どちらも上昇ムードを断ち切りたくないところだ。

東洋大は前節、2-1で勝利し、無敗の関学大に初めての土をつけた。開幕当初は得点力不足に悩まされたが、この2連勝はいずれも逆転勝利で、我慢しながら組み立てた攻撃がゴールにつながるパターンが増えてきた。立ち上がりは勢いのある関学大に攻め込まれ、どちらかといえば慎重な戦いぶりで無失点を目指したものの、「前半終了間際の失点が悔やまれる。後半、より難しいゲームになったと感じたが、選手の頑張り逆転できてよかった」(古川毅監督)。攻撃にかかった時には積極的に前に絡む人数が多くなり、選手交代も効果的に生きた。もともと守備は堅いチームだけに、追い付いて勝ち越せたこの2試合の自信は大きい。

対する拓大も前節、日大を2-0で下した。開幕3連敗だったがその後は2勝1分と負けなしで、3試合で7得点と、こちらも得点感覚を取り戻してきたのが大きい。前半、2試合連続スタメン起用に促したFW沼倉類(4年)が21分に先制点、後半にも早い時間帯で追加点を奪うという理想的な試合展開だった。それでも、無

失点で終わったものの必ずしも完勝ではなかった。「相手に3点くらい取られてもおかしくなかった。GKが頑張ってくれたし、最後まで動き続けて相手にプレッシャーをかけることができた」(玉井朗監督)。連敗中に見られた消極的な姿勢は払拭されただけに、攻守のバランスに気を配りながら東洋大の堅い守りを崩したい。

<3回警告>谷川貴也(拓大)、田口慎太郎・小山大貴(東洋大)

<昨年の対戦>リーグ戦での対戦はなし

東洋大	拓大
10. 平石	2. 谷川
24. 池田	24. 多田
15. 小山	7. 齊藤
11. 西岡	6. 紙谷
27. 森川	21. 佐川
1. 浅沼	4. 郡司
28. 仙頭	21. 佐川
14. 小山	11. 佐々木
31. 宗像	13. 三浦
18. 沼倉	13. 三浦
5. 田口	16. 大森
16. 石坂	26. 新山

予想布陣は直近の試合を参考に作成しています

JR 東日本カップ 2014 第 88 回 関東大学サッカーリーグ戦

if OFFICIAL MATCHDAY PROGRAM
Division2 2014-NO.7

編集：五味亜矢子 発行：(一財)関東大学サッカー連盟 協力：関東大学サッカーサポーターズクラブ



関学大初黒星で神大一步抜け出す！

JR 東日本カップ 2014 第 88 回 関東大学サッカーリーグ戦・2部リーグは、前期の折り返し点、第6節を終えた。首位を走る神大は東学大を3-1で下し、勝点で並んでいた2位の関学大が東洋大に1-2で敗れたため、一步抜け出した。また、東洋大は7位から一気に4位に浮上した。3位の法大は産能大と引き分け、未だ無敗だが既に3引き分け。5位の日体大も東農大と1-1で引き分け、同じく3引き分けと勝ち切れない。また、下位では平国大が青学大と引き分けて今季初の勝点を獲得、拓大は日大に2-0で勝利して順位を一つ上げた。

今節は、過密日程期間のラストだが、疲れも溜まっている中で中

得点ランキング	アシストランキング
4: 高木 利弥 (神大)	3: 伊東 純也 (神大)
中村 瞬 (関学大)	太田 一輝 (関学大)
萱沼 優聖 (関学大)	平石 直人 (東洋大)
星子 直哉 (平国大)	仙頭 啓矢 (東洋大)
3: 全6名	桂 大晴 (日体大)
2: 全14名	大森 勇希 (拓大)
	2: 全10名

2日・中3日でのゲーム。各チームともメンバーやコンディションをやり繰りしながらの調整だが、うまく乗り切り前期後半戦に向かうのはどのチームか!?

JR 東日本カップ 2014 第 88 回 関東大学サッカーリーグ戦 星取表

(第6節終了時)

順位	2部	神大	関学大	法大	東洋大	日体大	東学大	東農大	青学大	拓大	日大	産能大	平国大	勝数	負数	分点	得点	失点	得失差	勝点
1	神大		6/15	5/25	5/18	5/11	3○1	5/6	2△2	4○0	1○0	4○0	5○3	5	0	1	19	6	13	16
2	関学大	日体大G		5/17	1●2	5/25	3○0	2○1	5/10	2○0	5/5	3△3	5○0	4	1	1	16	6	10	13
3	法大	東洋大G	青学大G		2○0	0△0	6/14	1○0	2△2	3○0	5/11	2△2	5/6	3	0	3	10	4	6	12
4	東洋大	たつこ	2○1	0●2		6/15	0●1	5/11	5/25	5/6	0●1	4○0	3○2	3	3	0	9	7	2	9
5	日体大	日体大G	BMWス	0△0	日体大G		5/6	1△1	5/17	0●2	0△0	4○1	2○1	2	1	3	7	5	2	9
6	東学大	1●3	0●3	法大G	1○0	ゼットエー		0●1	2○0	5/10	5/25	5/17	3○2	3	3	0	7	9	-2	9
7	東農大	駒沢陸上	1●2	0●1	日体大G	1△1	1○0		6/14	5/18	1△1	5○0	5/24	2	2	2	9	5	4	8
8	青学大	2△2	保土ヶ谷	2△2	東洋大G	青学大G	0●2	法大G		3△3	2○1	5/6	1△1	1	1	4	10	11	-1	7
9	拓大	0●4	0●2	0●3	千葉東総	2○0	たつこ	上柚木	3△3		2○0	5/25	6/14	2	3	1	7	12	-5	7
10	日大	0●1	ゼットエー	法大G	1○0	0△0	産能大G	1△1	1●2	0●2		6/14	5/18	1	3	2	3	6	-3	5
11	産能大	0●4	3△3	2△2	0●4	1●4	ゼットエー	0●5	ゼットエー	産能大G	産能大G		5/11	0	4	2	6	22	-16	2
12	平国大	3●5	0●5	千葉東総	2●3	1●2	2●3	千葉東総	1△1	産能大G	上柚木	法大G		0	5	1	9	19	-10	1

体育会学生のための

リクナビ就職エージェント

ゴールは、自分の中にある。

部活と就活にエールを送る! 体育会学生のための「リクナビ就職エージェント」

リクナビ 体育会



RECRUIT

関東学院大学 vs 日本大学

5月5日(月・祝)
13:50K. O.
ゼットエー

前節、敗れてしまったチーム同士の対戦。関学大は今季初黒星、日大は連敗を喫したことになる。どちらも中2日でのゲームとなるだけに、コンディション調整とともに、精神的に切り替えて臨めるかがポイントだ。

関学大は前節、東洋大と対戦して1-2で敗れた。いつも通り積極的な出場で、42分に先制点を奪ったものの、後半に入って攻撃に出てきた東洋大に対し、交代出場の手を止め切れず、68分、77分と2失点を喫した。失点はアンラッキーなものもあったが、1得点に終わったのは今季初めてであり、石村大監督は「良いプレーをしようという欲が出過ぎて、ボールを出すタイミングや置く場所がいつもと違った」と感覚のズレを指摘した。決して悪い内容ではなかっただけに悲観することはないが、今季は複数点差をつける試合展開が多だけに、今後は接戦の戦い方が課題だろう。「中2日なので気持ちを切り替えて準備したい」（石村監督）。

対する日大は前節、拓大に0-2で敗れた。開幕戦以降は勝ち星がなく、ここ3試合は無得点。メンバーの入れ替えを含めての試行錯誤が続いており、苦しい状況が続いている。しかし、勝点数の近い拓大との対戦は拮抗した内容で、シュート数も互角だったが、相手 GK の好

守に阻まれ無得点に抑えられてしまった。6試合で3得点という不振だが、川津博一監督が「得点にならなかったが、ビッグチャンスは何回もつくれたのは良かった」と話したように、攻撃面ではやや復調の兆しも見え始めたと言える。あとは、球際の勝負やルーズボールへの反応など、細かな部分でいかに先手を取っていけるかどうか。「気持ちを前面に出さなくてはいけない」（川津監督）。今季好調の関学大とどこまで渡り合えるか。

<昨年の対戦>リーグ戦での対戦はなし

関学大		日大	
4. 久保		25. 大谷	
8. 普光院		8. 床井	
25. 亀井	9. 富樫	42. 谷川	
	7. 太田	7. 廣田	
1. 井田	10. 土館	40. 佐野	1. 谷
	3. 原島	11. 齋藤	
	33. 萱沼	15. 山口	
	32. 木村	4. 高橋	
34. 山口		38. 田中	
		6. 中村	

青山学院大学 vs 産業能率大学

5月6日(火・祝)
11:30K. O.
ゼットエー

なんと4試合連続引き分け中の青学大と、2度目の引き分けで今季2つめの勝点をマークした産能大との対戦。どちらかが、勝ち切る試合を見せられるかどうか。

青学大は前節、最下位の平国大と1-1で引き分けた。立ち上がりから初勝利を目指す平国大の勢いを受けてしまった印象で、前半は押し込まれながらピンチをしのぐ展開に。無失点のまま後半に入り、徐々にリズムを取り戻したところでカウンターから失点してしまった。終盤の反撃で初出場のFW高橋愛斗(3年)の初ゴールで同点とし、その後も攻め続けたが、同点のまま終わった。「ゴール前でのもうひと押しや、相手のボールを取りにかかっているのに抜けられたりと、あと一歩詰めていけばいいところをやり切れていない」（宮崎純一監督）。今節も勝利のない産能大が相手だが、決して油断はできない。「失点後にできた、ゴールに向かうゴール運びやボールを奪うポジション取りをきちんとやっていきたい」（宮崎監督）。受け身にならないことが大事だ。

対する産能大は前節、3位の法大と2-2で引き分けた。なかなか勝利が遠いが、2度の引き分けは3-3と2-2で、いずれも3点のビハインド、2点のビハインドを追い付いたもの。法大には多くのシュートを打た

れ、14分までに2点を献上しただけに、試合の入り方、前半の戦い方をもう少し改善できれば関東初勝利の日も近いはずだ。法大戦ではU-19日本代表候補FW越智大和(1年)の出場停止を受けて初出場したFW見留耀太(1年)が、1得点1アシストの活躍を見せた。「負けているので受け身になってしまったのが課題。連戦はウチの強みでもある。自分たちからアクションを起こして勝ちにいきたい」（加藤望監督）。

<昨年の対戦>リーグ戦での対戦はなし

青学大		産能大	
6. 服部		11. 青木	25. 渡辺
31. 菊地		4. 楠元	
3. 御牧		36. 須永	
33. 山田		37. 見留	31. 安田
1. 高橋	10. 関谷	33. 浜下	
	27. 角宮	20. 齋藤	
	14. 伊藤	6. 遠藤	
4. 水島		17. 岡村	
	7. 荒木	32. 上長	
2. 堤			

神奈川大学 vs 東京農業大学

5月6日(火・祝)
11:30K. O.
駒沢陸上

首位を走る神大と、2勝2敗2分で7位の東農大との対戦。昨季は神大の2勝で大量得点もあったが、今季は大崩れのない東農大がどこまで抑えられるか。

神大は前節、東学大に3-1で勝利し、これで今季5勝目を挙げて2位以下を一步リードした。天皇杯神奈川県予選をはさんでの連戦を感じさせない立ち上がりで、12分に先制点を奪うと37分に追加点。後半は選手交代で、連戦の選手を休ませる余裕も見せた。しかし、松永道敬総監督が「ラッキーもあった。PKも含め前半で2点リードできたのが大きかった」と話したように、後半は一変して東学大に攻め込まれ、決定的なピンチもありながら相手のミスやクロスバーにも助けられた。それでも、FW伊東純也(4年)がスピードとキープ力を発揮し、逆襲からダメ押し点を奪うところが今の神大の強さ。この連勝、無敗記録はどこまで続くか。

一方の東農大は前節、日体大と1-1で引き分けた。全体的に見れば、決定的なピンチはあまりなかっただけに、11分に与えたワンチャンスからのミドルシュートは痛い失点であった。そこから一時は流れを取り戻し、19分に相手ゴール前のルーズボールを奪って同点としたものの、後半は相手にボールを持たれることが多く、

しのぐことに終始し、ほとんど攻撃のチャンスをつくることできなかった。「後半は特に運動量が上がらず、セカンドボールも拾われた。もっと高い位置でボールを動かさないといけない」（廣本達也コーチ）。運動量を武器とするチームだけに連戦の疲れも懸念されるが、強力な神大の攻撃を、数的有利をつくって防げるか。

<3回警告>金裕志(東農大)

<昨年の対戦>前期/神大3-1東農大、後期/神大5-0東農大

神大		東農大	
3. 高木		2. 中西	
11. 星		11. 井上	
4. 藤原		15. 小田原	
16. 武田		7. 和氣	
12. 黒沢	14. 芦野	12. 榊原	1. 矢口
	9. 郡司	14. 石川	
	6. 前田	25. 金	
5. 杉山		5. 櫻岡	
	10. 伊東	8. 佐々木	
29. 南		3. 加藤	

日本体育大学 vs 東京学芸大学

5月6日(火・祝)
13:50K. O.
ゼットエー

4試合勝利のない日体大と、2連敗の東学大との対戦。悪い流れから抜け出したいチーム同士の対戦だけに、どちらも先手を取って主導権を握りたい。

日体大は前節、東農大と1-1の引き分け。これで1敗をはさんで3引き分けで、得点はなんと4試合ぶり。それでも、攻撃のリズムはなかなか戻ってこず、11分に先制したものの追加点を奪うことができなかった。倉又寿雄監督が「自分たちの時間をもっとつくりたい。簡単にボールを失って、自分たちから相手に流れを渡してしまった」と嘆いたように、先制からわずか8分後にDFがクリアし切れなかったボールを奪われ同点を許した。後半、押し込む時間は長かったものの連携がいま一つで、個人のドリブル突破など単発に終始してしまっただけで、攻守とも課題の残る試合だった。セカンドボールの処理を含め中盤の競り合いに勝ちたい。

対する東学大は前節、神大に1-3で敗れ、上位2チームに連敗を喫してしまった。2試合連続で3失点、ここ3試合で8失点と失点が重なっている。好調のチームが相手とはいえ、早い時間帯でビハインドを背負うことが多くなっているのは課題だ。神大戦は前半で2点を献上したため、後半開始からメンバー交代で打開策を見出

し、後半は長い時間、神大を自陣に釘づけにした。しかし、再三の決定的なチャンスを逃し、3点目を失った後にオウンゴールで1点を返したのみ。「決めるか決めないかが神大との差だった。攻撃はもっと大きく動いて相手のギャップをつくっていかないといけないが、前半は中途半端だった」（檜山康監督）。ただ、後半の動きの良さは今節につながるはず。立ち上がりに注意したい。

<3回警告>阿部潤(日体大)、永井雄介(東学大)

<昨年の対戦>リーグ戦での対戦はなし

日体大		東学大	
2. 高野		5. 廣木	
15. 佐藤		18. 久保	
13. 増谷	10. 阿部	4. 脇本	
23. 小泉		8. 菅	
1. 伊藤		11. 五十嵐	1. 須賀
		10. 佐々木	
	4. 桂	14. 平田	
	20. 高野	23. 永井	
	7. 長谷川	7. 佐藤	
	11. 小山	16. 富澤	
26. 福田			